

## 社会・文化

## 経済

## 政治

## WORLD

### 連載

- 10 世界のキーパーソン
- 11 国内人情情報
- 27 Book Reviewing Globe
- 40 テイレスシアスの食卓 ― 河井健司
- 42 大往生考
- 51 西風
- 59 交差点 ― 読者の声・編集者の声



「サプリ大国」米国での規制緩和を真似したのが安倍政権。米国ではその後、健康被害が続出した。無法地帯と化した日本では、厚労省・医学界・メディアが危険性の隠蔽で結束する。新自由主義の副作用だ。(110頁)

- 98 社会・文化 ● 情報カプセル
- 100 **売国デジタル庁は解体せよ**
- アマン首相「政官民」の癒着
- 102 世界「カフェ文化」の最新事情 ― 巨大チェーンが「乱立」する理由
- 104 ヴェネツィア「都市景観画」の魅力 ― 「時代の記録」を持つ普遍的価値
- 106 **AI時代の致命傷 電力不足**
- 日本後進国化の最大要因
- 108 「南海トラフ地震」杜撰な備え ― 台湾に大きく劣る「防災体制」
- 日本のサンクチュアリ・シリーズ 5%
- 110 **サプリ健康食品の「魔窟」**
- ― 被害はもつと 広く深い
- 80 金融の世紀 ― 黒木亮
- 88 皇室の風 ― 岩井克己
- 90 日本の科学アラカルト
- 92 新・大学評判記
- 94 本に遇う ― 河谷史夫
- 96 をんな千一夜 ― 石井妙子
- 114 マスコミ業界ばなし

3 連載(巻頭インタビュー) 櫻川昌哉 ― 「金利のある日常」で正気に戻れ

● 特別レポート

## 歯止めなき中東戦争

憎悪の増幅に無力の米国

- 6
- 12 **日米「太平洋防衛」の見かけ倒れ**
- 米海軍増強は日本のカネが頼り
- 14 英国「社会インフラ」で進む崩壊 ― 想像超す「国家的貧困」の表れ
- 16 中南米恒例「悪党の亡命」に異変 ― エクアドル「捉破り」の衝撃
- 18 WORLD ● 情報カプセル
- 22 **ウクライナ「五月危機」はない**
- プーチンの戦争「制御不能」
- 24 **ISテロ組織膨張の恐怖**
- 「モスクワの次」はどこか
- 28 **欧州にも広がる「MAGA運動」**
- 民主主義「破壊」を狙う狂信勢力
- 30 ベトナムを揺るがす中国 ― 政争続発が示す「脱日米路線」
- 32 ミャンマー軍政に迫る「限界」 ― 国軍トップ「殺害未遂」で激震
- 34 北と韓国「宇宙軍拡」の虚と実 ― 危険なほど大きい「実力差」
- 36 東南アジア「帯一路構想」の大嘘 ― 中国「巨大事業」は頓挫だらけ
- 38 連載(現代史の言霊) 五月の悔恨 ― 天安門事件 ● 戒厳令布告(一九八九)
- 44 政治 ● 情報カプセル
- 46 **小池百合子は どう「延命」するか**
- 空疎な女帝が頼る意外な男
- 48 **補選後政局 岸田の魂胆**
- 「解散戦略」どの道を選ぶか
- 52 連載(政界スキャンダル) 森・岸田二階「処分免除」の三悪人
- 54 **立憲民主党に広がる「選挙楽観論」**
- 政権交代の覚悟なき「弛緩野党」
- 56 菅は「石破」を担げるか ― 優柔なる「打倒岸田」の成算
- 58 連載(罪深きはこの官僚) 大坪寛子(厚生労働省健康・生活衛生局長) ― 紅麹サプリ問題でも省益優先
- 60 米国「超放漫財政」の末路 ― 「金利・為替・株価」急変もありうる
- 62 **ゼレン&アイに「幻の株主提案」**
- 「ヨーカー」巡る秘された攻防
- 64 日本も「サハリン2」から撤退せよ ― 三井と三菱「媚ロシア商売」の引き際
- 67 連載(クローズアップ)
- 関根正裕(商工中金社長) ― 完全民営化後の「下」の野望
- 68 連載(企業研究) **小林製薬**
- 「紅麹禍」で問われる真実
- 72 **HOYAの障害は「サイバー攻撃」**
- 隠蔽される重大事件の内幕
- 74 経済 ● 情報カプセル
- 78 連載(地方金融の研究) 肥後銀行 ― 半導体バブル「台湾依存」の狂乱
- 82 不正蔓延「トヨタ販売網」の悪行 ― 章男強権で進む「モラル決壊」
- 84 **ロシアは「二〇二四年開通」も絶望**
- 川勝問題より深刻な「工事遅延」
- 86 企業コンサル「断捨離」のすすめ ― 無駄な高額報酬「有効活用」の道



かの自民党事務総長は、岸田に複数の選択肢を示して決断を促したという。1つは早期に人事を刷新し、新布陣で総選挙。もう1つは総裁交代、それも女性に道を譲って衆院解散。岸田が選ぶのは別の道だろう。(48頁)

被害者や取引先との訴訟リスクは深刻。会社の信用も地に堕ちた。一方で、財務は盤石。同族企業の割にガバナンスも意外にまとも。ニッチ製品群の強みもあり、この逆境を乗り切る可能性も低くない。(68頁)



宿敵との直接交戦を経て、イランの核開発はピッチを上げる。イスラエルは内なる極右に煽られて、紛争終結の気配もない。世界が恐れた最悪の展開で「止め役」の米国が機能不全。報復の応酬は長く広がる。(6頁)